

特集 “もっと知ろう! アジア! パート2”

キルギス共和国

去る7月31日、川崎市国際交流センターで、キルギス共和国民族劇団「オールド・サフナ」川崎公演が開催されました。大盛況の公演でとても素晴らしいとの評判ですが、キルギス共和国のことを知っている方は多くないようです。公演がご縁で、今号では、在日キルギス共和国大使館員・ジュルディス・ルスパエワさんに故郷のお話をうかがってきました。

まず、キルギス共和国はどの辺りに位置するかというと、中央アジアの北東部です。北をカザフスタン、南をタジキスタン、西をウズベキスタン、東は中国と隣接しています(地図参照)。天山山脈に連なる山岳国で、総面積は日本の半分強で約20万km²です。首都はビシュケクで、人口は510万人強です。国内には多くの湖があり、その最大の湖がイシククル湖です。

Q: まず、キルギスの一番の見所をお聞きしたいのですが、何でしょうか?

A: イシククル湖です。私も行って来たばかりなのですが、とにかくとても美しい所です。国内ではリゾート地として有名ですし、多くのセレブの別荘もあります。

大きな湖ですので、湖畔を一周するのに、車でも半日位かかるのではないのでしょうか? 泳いだりもできますし、古代文明の遺跡を見学するクルーズもあります。空気がいいせいでしょか、食事やお酒もとてもおいしく感じられ、いくら飲んでも酔わない感じです。とてもリラックスできます。これから、もっとリゾート開発が進むと思います。

Q: どういった産業が中心ですか?

A: 農業が中心ですが、金、レアメタル、鉄鋼産業などもさかんです。昔、遊牧民でしたので今は伝統のひとつとして遊羊業もあります。水も豊かで隣国へも輸出しています。

Q: どのような料理がキルギス料理ですか?

A: 手打ちのうどん「ケスメ」というものがありますが、日本のきしめんとよく似ているように思います。また、南の方では、赤い玄米がとれるので、ピラフにして食べます。キルギスでは白飯を食べる習慣はないので……。おもてなし料理としては羊を一頭まるごと煮ます。一番目上の方に一番貴重な部位を召しあがっていただきます。特に冠婚葬祭の時は、必ず羊料理を出すのではないのでしょうか。一応イスラム教が主流ですが、日本と同じような感じで、それほど厳しい制限はありません。ですから、食事もそれほど厳しい制限はありません。

Q: 日本との関係について教えてください。



イシククル湖

A: 1991年に独立宣言を行ってから、海外との交流が広がってきました。その後日本から先生を招いて、日本語の勉強をする人が増えました。また、日本にもキルギスからの留学生が10~20名来ています。

2004年4月、日本にキルギス大使館ができました。海外青年協力隊やODA関係で、日本からもキルギスに行っています。

Q: 教育制度は?

A: 義務教育は小・中学校を合わせて8年です。その後、70~80%の人が高校へ、その他の人は専門学校に行ったり就職をします。その後大学

へ進学する人は30%位ですが、日本と同様、難関大学と言われるところは試験も難しく入学するのは大変です。公立の学校は授業料はかかりません。国立の大学も、以前は授業料がかかりませんでした。今も無料の枠がありますが、それ以外の学生は授業料がかかります。大学を卒業しても就職口が少ないのが現状です。この先、産業が拡大され、会社が増えることを願っています。

Q: 家族関係、住環境はいかがでしょう?

A: 都市部では日本と同様、核家族です。また、共働きも多いです。田舎は二世帯で住むのが主流です。キルギスでは末っ子の男子が家を継ぐという伝統的な考えがあります。日本とは反対ですよね。ですから女性は、長男と結婚したいと思っています。

家は土地が広いので、平屋の一戸建てが主です。交通機関はミニバス、トロリーバスで、地方をつなぐ列車も通っています。



「オールド・サフナ」川崎公演
川崎市国際交流センターにて

Q: 日本に来て驚いたことってありますか?

A: 一番初めに驚いたことは、バスに乗る時の情景です。キルギスではラッシュの時などバス停にたくさんの人が雑然と待っていて、バスが来ると急いでいっせいに乗り込みます。ところが、日本では並んでいて順に乗って行くので、乗り方のルールができていて、いいなと思いました。

日本の人たちの生活ぶりをみていると、いつも忙しそうです。キルギスでは、人と人とのコミュニ



ジュルディス・ルスパエワさん

ケーションを大切にしたい付き合い方をしています。お客さんを招いて、いつでも開放的な感じで接しています。少ししか時間がない時でも、お茶(紅茶)とパンを出して語らいつの時をもちます。お客さんと呼ぶ機会が多く、いつでも家庭が開放

されているという感じです。家族、親戚、友達など人との付き合いが親密です。また、隣近所の人たちとの出入りが気軽な感じです。人と人のつながりを大切にする文化があるように思います

日本の場合は、「伺ってもいいですか。」などと聞いたりして、少し堅苦しいですね。少しさびしい気がします。遊牧民族だったという影響があるかもしれません。旅人を受け入れ、大切にするという伝統的なものがあるかもしれません。日本の人たちは、いつもスケジュールが詰まっただけで忙しいのでしょうか。人を呼ぶのが仕事みたいになっている感じがします。かえって人と人とのつながりをなくしているのではないかと思いました。人を呼んで楽しむことが少ないように思いました。

Q: 最後になりましたが、本紙の読者にメッセージをお願いします。

A: キルギスに一度来てほしいです。湖の透明度がバイカル湖に次いで世界で2番目というイシククル湖を自分の目で見て味わってほしいのです。そして、きれいな空気、豊かな自然を体験してほしいのです。特にキルギス人と日本人は体形的にも似ているといわれ、兄弟といわれています。共通点もたくさんあるので、ぜひキルギスを知ってほしいです。

いま日本にいるキルギスの人たちは、東京周辺に30人ぐらい、日本全体で100人ぐらいの数ですが、その人たちと日本人たちとの交流会を作りたいです。キルギス料理の紹介や、文化の触れ合いを通してお互いを知り、交流を深められたらと思っています。

ジュルディス・ルスパエワさん、きょうは貴重なお話をありがとうございました。イシククル湖のお話をしている時のルスパエワさんの顔が輝いておられ、とても印象的でした。

(青柳尚子・福井すみ代・相沢明子)